

○中央新幹線整備の意義

- ・中央新幹線は、三大都市圏間の高速かつ安定的な旅客輸送を中長期的に維持・強化するものであり極めて重要。東日本大震災の経験により、大動脈の二重系化の重要性は更に高まっている。
- ・三大都市圏以外の沿線地域においても、地域活性化方策とあいまって地域振興に寄与。
- ・「ひかり」、「こだま」の増加により、東海道新幹線沿線都市群の再発展をもたらす可能性。
- ・三大都市圏間が約1時間で直結され、国土構造の変革、国際競争力の向上をもたらす可能性。
- ・我が国が独自に開発してきた高速鉄道技術を世界的に発信。

○走行方式、ルート、営業主体及び建設主体

- ・走行方式については、超電導リニア方式を採択することが適当。
- ・ルートについては、南アルプスルートを採択することが適当。
- ・営業主体及び建設主体については、JR東海を指名することが適当。

○付帯意見

- ・大阪までの早期開業方策を継続的に検討すべき。
- ・技術開発によるコストダウンに最大限努めることが極めて重要。
- ・国際拠点空港とのアクセスの利便性を十分に確保することが極めて重要。
- ・関係自治体との調整を含め、事業の早期段階から環境影響へ配慮すべき。
- ・鉄道・運輸機構の技術力等が活用されるべき。
- ・駅アクセス圏を従来の鉄道駅に比べて格段に拡大することが重要。
- ・駅の設置に関する沿線地域との協力関係を早期に構築することが重要。駅の位置等について調整したうえで、建設主体は各駅の具体的な建設費用等を精査し、駅の建設費用負担について考え方を示すべき。仮に、関係者間で合意が得られない場合、合理的な負担のあり方について、その検討への国の関わり方も含めて調整が行われることが望まれる。
- ・中央新幹線沿線地域の利便性の維持・向上を図るため、国、建設主体及び営業主体、沿線自治体並びに沿線交通事業者等による検討の場において、中央新幹線の整備効果を最大限に波及させる方策を検討すべき。
- ・地域独自の魅力を発揮する地域づくりを戦略的に実施していくことが重要。
- ・中央新幹線の整備効果を踏まえて国土政策及び交通政策全般について検討されるべき。